

シユムペーター先生の追憶

早川三代 治

一九五〇年新春早々の新聞が、こゝで「シユムペーター」の名を思ひ出し、大學の同門ボツてドイツツェル、シユビ先生が「ネチカウト州タマゴ」書館で「經濟發展の理論」(トホフ、マンステツド三教ツクの自宅で六十六才をもつ二九二年ウイン版)を讀むことが出来た。私は獨逸滞在中にこの兩者を入手したいと思つて隨分探したが望を達するしきほ微塵もなく、永年の知己のうちに打ちとけて、今の己のようになりかけて、今のオーストリアには理論經濟學を志す學生はほとんどいないと嘆息し、私の幼稚な質問に懇切な解答を與へてくれた。

それは快刀亂麻を絶つような明確であると同時に後進學生に對する温情親切のこもつた説明ぶりであつた。

「折」から新刊の季刊理論が、こゝで「シユムペーター」の名を思ひ出し、大學の同門ボツてドイツツェル、シユビ先生が「ネチカウト州タマゴ」書館で「經濟發展の理論」(トホフ、マンステツド三教ツクの自宅で六十六才をもつ二九二年ウイン版)を讀むことが出来た。私は獨逸滞在中にこの兩者を入手したいと思つて隨分探したが望を達するしきほ微塵もなく、永年の知己のうちに打ちとけて、今の己のようになりかけて、今のオーストリアには理論經濟學を志す學生はほとんどいないと嘆息し、私の幼稚な質問に懇切な解答を與へてくれた。

「私」が「J.Schumpeter」の姓名を知つたのは一つの偶然であつたと思はれる。一九二一年(大正十年)の二月早々のこと私は北海道帝國大學で卒業論文を提出後、重荷をおろした氣持で農業經濟學教室の書庫で本を漁つていたら、ふと目についた獨逸語の本があつたので開いて拾ひ讀んでみると、私の卒業論文の主題と同じ題目がふと目についた。

讀んでみると、自分が約二年がかりで考え悩んだ主題が何んの苦もなく明快に論斷されてゐるのであつた。

私は驚嘆の眼を以つてその本を改めて見た。

それが「理論經濟學の本質」と主要内容(一九〇八年)であり、著者は「J.Schumpeter」序文では著者はカイロ在住の人としか知られなかつた。

私は早速この本を借り出し、辭書と首つ明て讀んでいつたが、讀めば讀むほど議論の明確さに感銘すると共に、提出したばかりの自分の卒業論文の貧弱さが情けなくなつてしまつた。

これが私がシユムペーターの名を知つた最初の出来事であつた。

その年の夏、私はボン大學に入り、ドイツツェル、マンステツド三教授の講義を聞いた。

最大の不幸にも耐えてゆく力はどこか怪物に似てゐる。食欲に施すよりも大に與へる愉しさを社交における神経質は多くの場合不幸な自尊心にすぎない。

吾々が最も冷靜な精神状態にあると信じ吾々の理性や判斷力が鋭く冴えてゐるやうな時にもそれは特殊な感動の狀態であつて後になつてから深い疲労を感じるがある。崇高なる理性の下に狂氣の沙汰を演ずる人物はロシヤ文學の特産物になつてゐる。

詩人の前では散文家にすぎず散文家の前では

ア、マセス三教授に紹介の名等、講義や講演を行ひ、又長た。刷を書いてくれた。

翌日、銀行からの使者が新聞紙に包んだ校正刷を届けて来た。校正刷と言つても、校正が完了して、製本にまわす前の見本刷りであつた。私は宿その見本刷りを読んで、殊に神戸の「For Hotel」で終始一貫して討論の後、十数名の教授たちも、質問者自身の立場に身を置き、晩餐のため食堂に入つた置いて共に考へて行こうとする。晩餐の席が忽ち討論の席となり、サロンに退いてからの上では些少の不明確な許も十二時頃までも討論が續きぬといふ積極的な旺盛な思

「私」は「何んでも、十四、五」位も質問の材料をとりまゝとめて銀行へ助けて貰つた。階上の廣い部屋に通されると、そこは銀行頭取の事務室でなく、學者の書齋そのものであつた。中央のテーブルの上には、經濟學書や専門雜誌が山積してゐた。一番上には英國のエコノミック、ジャーナルが敷置かれてあつた。その上ウイサー、マイヤ

豫期以上の長座の後、私は半年をウインで暮らして歸國の途につくため先生に暇乞をした。

その後、ボンのドイツツェルに先生が隠退された後、シユムペーター先生はボンに招かれボン大學の教授として教授に立ち、經濟學部長となつた。それから先生は米國のハーヴァド大學やコロンビア大學に招かれて講義をしたが、一九三一年(昭和六年)の一月に日本を訪れて、東京帝國大學、京商大、京都帝國大學、神戸商大

不滅なる故には人間は死すべきものなるが故にソクラテスは臆するところなく死んだといふ。宗教的にも哲學的にも人間は死ぬべきである。しかし、子供は？

僕も理性に従つたつもりでゐた一つの口實にすぎないところの理性に絶対的の孤獨などあり得ない僕の知つてゐる男は一人て山道を歩くとよきまで肩を振つて歩いてゐた。

詩人の前では散文家にすぎず散文家の前では



シユムペーター教授(左から二人目)とそのサイン、右から二人目は早川教授、一九三一年神戸商大にて。

世界にありず不便に汝不潔耐えし汝の鼻に僕に日死を聞生を聞逸に因彼は、無私欲子供ら時に人間的な神様の無怒で見る一つの思想を持つ怖るべき便利は六人の

記 録

松尾正路

人は誠實ならざることを欲するに似る。誠實、あゝ、僕はいつ誰のために誠實だつたらうか！

意志の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

意欲の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

意欲の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

意欲の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

意欲の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

意欲の弱者は愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。愛するに似る。

前諸教君てここの歴史に永久に残ることであらう。経済學者でかつスキ一の大家高橋次郎君、商業英語の木曾榮作教授や大阪の法學博士實方正雄君等の録丘生時代に英語劇に出ていたといふことは、まことに愉快な思ひ出である。さて私はいよいよ京都大學へ歸ることになつたが恩師クワック、厨川の二教授が既にこの世においでにならぬことはまことに残念至極のことである。さはれ元氣よく再出役のスタートをさらうとしてゐる。散文の律動の研究、十四行詩の研究、テヌスのアイサ玉物語の研究等々完成すべきものが余りに多い。いささらば、録丘の諸君よ私はこゝにチアールズラムがその隨筆集に引用してゐるラテン語の一句「エストパテウア」(この家の永遠に繁榮せんことを)をもつて擲筆することとする。

かに如何にかめしい長偉を著え、嚴然と構えている教授型の近づき難い人かと想像していましたが、この想像は見事に外れてしまひました。この挨拶に、先生は半頭部の豊かに發達した、綺麗に仕上げた頭を揺すつて大笑ひをされた。先生はこの時まだ四十六才であつた。また他の或る老教授は、「シユムペーター教授は理想的な大學教授だ」と私に云つていた。

私にはこの言葉の意味がよく判る。學問研究に對するひたむきな精進、純學理への追求、自己の學理に對する自信と堅持、他人への主張に對する批判の嚴正と同時に寛容、倦むことを知らぬ熱心な指導力、人に接する温醇と明朗、流暢な話術。

これを一言で盡せば誠實な人の持つ魅力。これが私の亡き師に對する追憶の心髓である (終)

自宅にて永眠。

オーストリア學派に屬するとはいへ、彼は數理經濟學派(レオン、ソルラス、アルフレッド、マールシャル。クワック)の強い影響を受けてゐる、主觀學派としてのオーストリア學派はむしろ彼に終ると言ふべきである。

均衡概念による、主觀學派の修正は、シユンペーターに於いて、一切の因果的考察を均衡概念から驅逐するまでに徹底し均衡はあたへられたものとして、均衡的諸要素の相互依存關係が中心となる。

こゝに純形式的機械的な、靜態經濟學が位置づけられ、それに對照して、經濟生活のあ

らゆる分野に、新しい結合を生じて發展する資本主義經濟を長期的に、即ち動的に觀察するものとして動態經濟學が置かれる。

資本、信用、利潤、利子、の如き現象は後者によつてのみ取扱ひうるるとされるのである。

(編輯部)

(主要な著書)

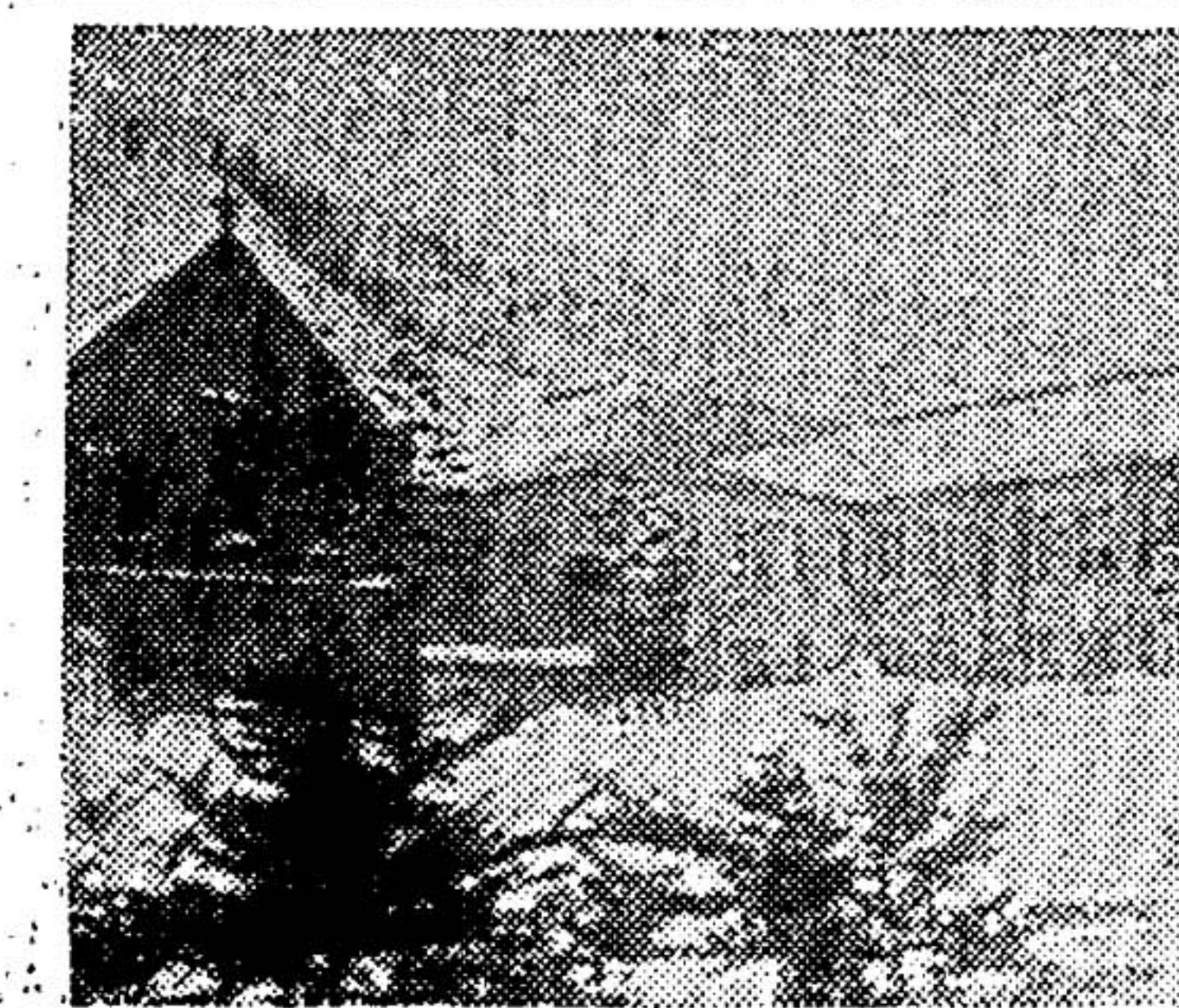
理論經濟學の本質と内容 (一九〇八)

經濟發展の理論 (一九二二) Theory of business cycles (1922)

Capitalism, Socialism and Democracy (1932)

考力とを持つていた。二十四才で「理論經濟學の本質と主要内容」を世に送り、二十七才で「經濟發展の理論」を發表した先生の生命力は「經濟學研究者として非常に優れてはいたばかりでなく、教師としてまた比類少ない人格者であつた。

「A シユンペーター (一八八三—一九五〇) オーストリア學派、代表者の一人ウィーン大學卒業後、グラーツ大學、ニュヨーク大學の教授に立ち、一九一九年、オーストリアの大蔵大臣として第一次大戰後の財政難にあたり、二十一年にはウイン、ピイダルマン銀行頭取となり、後ドイツ、ボン大學の教授となつた、ナチスの壓迫をのがれて、アメリカに渡り、ハーバート大學ウサラ大學、で活動をつづけ、米國市民権を有してゐた、本年一月八日コネチカット州タマゴック市の



あたいかい日が續いて……ぐんとへつた雪の山
それでも 空はどんより重くにどつてゐる…

會計と會計學との發展

木村重義

法人税等規定の會計に關係ある部分を見ると、昔に比して、法律が經營者の自由と會計學の結論とを尊重していることがよく見られる。たとへば減價償却額の計算法、棚卸資産買戻の決定法、會計學上

恒例 業生 一目 一場

織丘 新 恒例 業生 一目 一場